

平成28年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 西 脇 中 学校
校長氏名	北 垣 有 信
作成日	平成 29年 2月 10日

1 教育目標

共に 豊かに 生きる

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	◎家庭との連携を密にし、保護者や地域に信頼される開かれた学校をめざす。 ◎地域の共育コミュニティ等と積極的に交流し、地域と共に育つ学校をめざす。	◎道徳教育を推進し、基本的な生活習慣や規範意識、学習規律を育成するとともに社会貢献に資する精神を育む。 ◎学校行事や学級活動など、体験的な活動を通して「誠実で、思いやりがあり、個性豊かな生徒」を育てる。	◎「学び合いの授業」を通して、生徒の関心・意欲が高まる授業の工夫・改善をし、生徒の学びの定着を支援する。 ◎キャリア教育を充実させ、主体的に進路を選択する生徒の育成を図る。

取組の状況【D】	◆「ぐるりんメール」とホームページを活用して学校の予定や様子を積極的に発信し、家庭との連携を密にする。 ◆小中連携、生徒会や愛育会の活動、共育コミュニティ事業等を通して、本校教育への理解と協力を得る。	◆生徒実践目標「あ（挨拶）、そ（掃除）、べ（ベル着）」の指導を徹底する。 ◆「学び合いの授業」などグループ学習を通して、より望ましい学級・学年集団づくりを進める。 ◆ゲスト・ティーチャーから多くを学ぶ。	◆「学び合いの授業」実践により授業についての研修を深め、授業改善をはかる。（毎月1回水曜6限に公開授業：一人一公開） ◆定期考査時の補充学習 ◆読書タイムの充実、図書館の活用
（評価結果）【C】	■メールとHPの活用により、学校の情報提供についてのアンケートが3年連続で90%程度の肯定評価を得ている。 ■科学技術部・美術部・吹奏楽部など、西脇・八幡台両小学校での活動、地域高齢者施設の訪問、地域神社への奉納等々、多くの活動を展開している。	■「挨拶・掃除・ベル着」は、生徒の意識に定着している。 ■「学び合いの授業」実践で対話的・協働的な学びができてきた。 ■西脇ブロック人権研修等で小学校との授業交流ができた。	■公開研究授業をほぼ月一回のペースで実践し、計23人の授業公開と研究協議ができた。 ■県教育委員会の訪問指導（6回）で多くを学び、授業改善に活かすことができた。 ■テスト前補充学習の方法については検討が必要である。
改善方法【A】	○メール・HPについては内容を精選しながら継続配信する。 ○共育コミュニティの活用を充実させつつ、コミュニティ・スクールとの関連を模索する。 ○学校行事への保護者の参加を促す。	○「あ・そ・べ」を継続して徹底指導する。 ○小学校との交流をさらに進めることで、小学校の学級経営などを学ぶ。 ○「学び合いの授業」で「学年・学級づくり」を意識したよりよい学習集団づくりを目指す。	○「学び合いの授業」を徹底することで、学ぶ楽しさを追究できる授業づくりを進める。 ○「朝の読書」の充実をはかる。 ○テスト前補充学習と「3点固定」を合い言葉にした家庭学習の充実をはかる。

3 その他の課題

昨年度から「学び合いの授業」づくりを研究の柱として「学びの共同体」型授業で校内研修に取り組んできた。WYSH教育、Q-U活用Gアプローチ授業なども含めて、グループ学習による授業改善と集団の育成に力を注いで来たところである。県教育委員会の訪問指導などもあって教員の研修機会は昨年度に続いて一層充実してきたが、残念ながら成果が見えるところには至っていない。また、生徒の状況も学力向上の面では未だ課題が残り、生活指導面でも学習規律や意欲などでの困難さは十分に解消されているとは言えない。

次年度は「学び合いの授業」づくり3年計画の3年目に入る。子ども達の「居場所と出番のある学校」生活を保障できる学校運営を引き続き目指したいと考えている。